

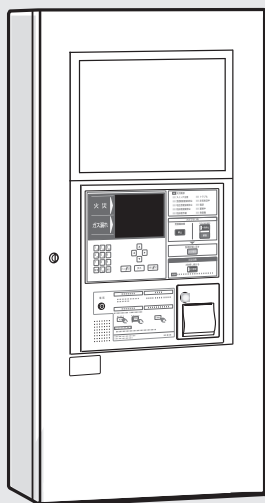
保管用 屋内専用

## 施工説明書

GR型受信機

R X 3 0 0 (1020アドレス)

品番 NBS521



### 施工される前に

- 正しく施工していただくために必ずお読みください。
- 施工するには、電気工事士・消防設備士（甲種第4類）の資格が必要です。
- 施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお渡しください。
- 万一、施工説明書にしたがわず施工された場合の事故や故障などについては責任を負い兼ねることがあります。
- 火災・ガスもれなどによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

- ソフト設定が必要です。  
感知器・中継器の端末構成などの設定が必要です。  
専用ソフト（テーブルジェネレータ（FLTG））を使用し設定してください。

### ⚠ 警告

- 受信機の表面が汚れた場合、水をつけたり・水をかけたりして汚れを落とさないでください。  
感電・故障の原因となります。
- 〔詳しくは取扱説明書の「お手入れ方法」を参照してください。〕



**Ni-Cd**  
ニカド電池は  
リサイクルへ

# 安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



**警告**

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



**注意**

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

- お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。  
(次は図記号の例です。)







してはいけない  
内容です。





実行しなければならない  
内容です。

## 警告

|  |  |
|--|--|
| <br>分解禁止    | 機器を分解したり、修理・改造はしない。<br>感電・故障の原因となります。  |
| <br>必ず守る   | 電源（AC100V）を切り、予備電源用の電池を取りはずした状態で施工する。<br>活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。                  |
|  | 施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるように、または転倒しないように<br>強固に取り付ける。<br>安易な取り付けは脱落・転倒によるケガの原因となります。 |
|  | AC100V専用です。接続前に入力電圧の確認をする。<br>AC100V以外の電圧では発火・発熱の原因となります。                        |
|  | AC100V用電源線は確実に差し込む。<br>差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。                     |
|  | 速結端子は確実に差し込む。<br>差し込みが不十分な場合、不動作の原因となります。  |
|  | 電線は確実に締め付ける。<br>締め付けが不十分な場合、不動作の原因となります。   |
|  | ヒューズ交換は電源（AC100V）および電源スイッチを切った状態で行う。<br>電源を切らないと、感電の原因となります。                     |
| 電池は必ず接続する。<br>電池を接続していないと停電時に機能しません。   |  |
| <br>禁止    | 水や雨のかかる場所（屋外など）および湿気の多い場所（給湯室など）には設置<br>しない。感電・故障の原因となります。                       |
|  | 小勢力端子にAC100V用電源線を接続しない。<br>発火・発煙の原因となります。  |
| <br>ぬれ手禁止 | ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。<br>感電・故障の原因となります。                               |

## 注意

|   |  |
|---|--|
| <br>アース線接続 | アースの接続は確実に行う。<br>使用時や漏電のときに感電するおそれがあります。 |
| <br>必ず守る   | 据付作業は落下・転倒防止のため、必ず2人以上で作業する。             |

# もくじ

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| 安全上のご注意                      | 1~2   |
| 1. 付属品                       | 4     |
| 2. 施工上のご注意                   | 4     |
| 3. 機能設定                      | 5~6   |
| ●件名テーブルを登録する                 | 6     |
| 4. 取付方法                      | 7~8   |
| 5. 全体の接続方法                   | 9~15  |
| ●AC100V配線（速結端子）/小勢力端子（速結端子）  | 9     |
| ●火災表示灯3型（パナソニック製BV9403K）との接続 | 15    |
| ●中継リレー1型（パナソニック製BV9475）との接続  | 15    |
| 6. 中継器について                   | 16~19 |
| 7. システム容量・端末接続個数             | 20~21 |
| 8. その他のラベル表示について             | 21    |
| 9. 施工後の確認方法                  | 22    |
| 別紙1. EF連携（SP放出→火災確定）         | 23    |



# 1. 付属品

- 取付用部品 **工事用** (プリンタ用紙など) ……1セット
- 予備品 **保管用** (ヒューズなど) ……1セット
- 電話機 ……2台
- 電池 ……1コ
- 施工説明書 (本紙) ……1冊
- 取扱説明書 ……1冊
- 取扱説明書 (地図式) ……1部

## 2. 施工上のご注意

- この商品は **屋内専用** です。屋外・屋側には設置しないでください。
- 接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

■次のような場所には設置しないでください。  
(誤動作・故障の原因となります。)

- 直射日光の当たる場所
- 水滴、蒸気、ホコリなどがかかる場所
- 周囲に操作上支障となる障害物のある場所
- 衝撃、振動などの影響を受ける場所
- 常に人がいなくてようすを確かめられない場所
- 薬品などのガスが発生する場所
- 強電界やノイズの発生する場所

### ■地区ベル接続時のご注意

- 必ず受信機の地区ベル接続容量以内でご使用ください。
  - 建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
    1. 地区ベルの駆動方式が電磁式でないことを確認してください。
    2. 地区ベルが他社製の場合は、地区ベルのメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。
- ※電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

### 施工時のご注意

- 工事・施工時のゴミなどは機器の中に残さないでください。ショートや故障の原因となります。
- 電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。  
電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化接触不良をおこし誤動作の原因となります。
- 強電ライン・AC100V配線と小勢力配線は離して施工してください。  
強電ライン・AC100V配線が小勢力配線の近くにあると誤動作の原因となります。
- 感知器・中継器伝送配線に関して、下記の結線はしないでください。故障の原因となります。
  - ある系統の感知器・中継器伝送配線と別の系統の感知器・中継器伝送配線の結線
  - ある系統の感知器・中継器伝送配線と他の小勢力配線の結線
- 接続方法に示す機器以外の機器を接続する場合には、当社へご相談ください。  
不適切な接続は誤動作・故障の原因となります。
- 他社商品との接続は、仕様をよく確認してください。仕様が合わないと誤動作・故障の原因となります。
- アースは必ず接続してください。(D種(第3種)接地相当以上(100Ω以下)としてください。)
- 蓄積型感知器および蓄積式中継器・火災表示灯(パナソニック製BV9402)は、接続できません。
- 中継器は必ず受信機の電源(AC100V)を切り予備電源を外してから接続してください。  
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。



### 施工する前に

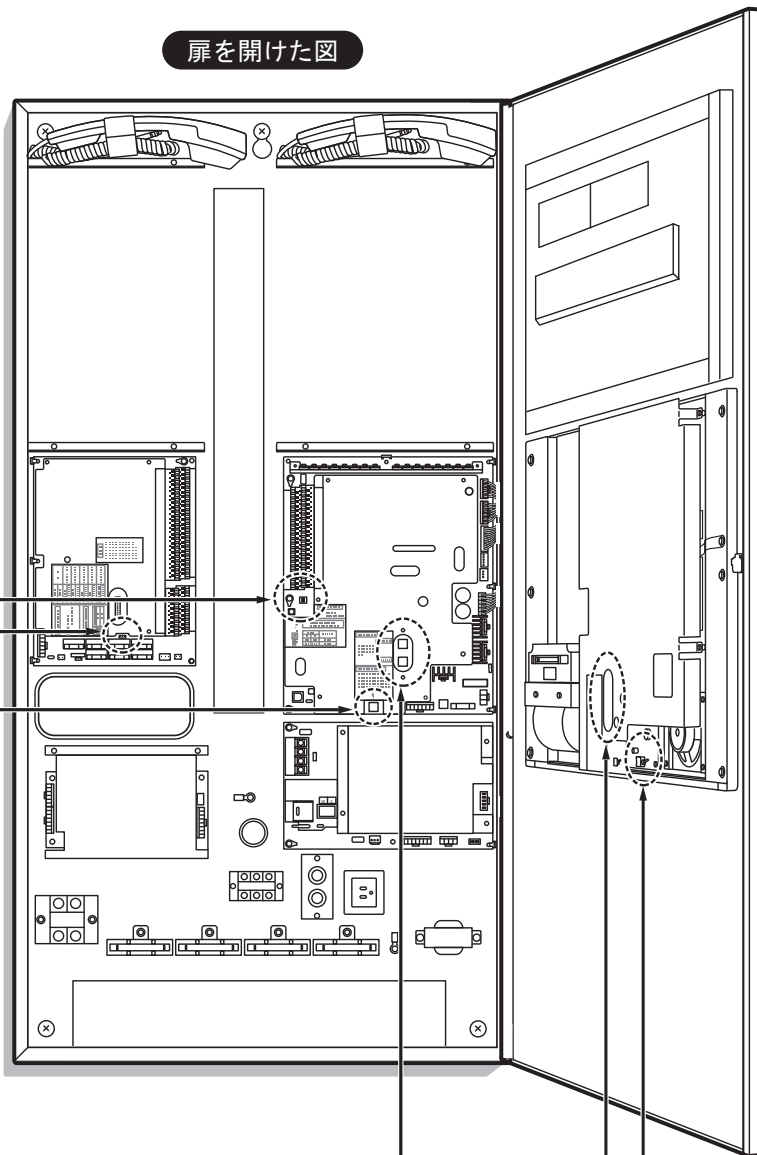
- 感知器・発信機・中継器・アイソレータは、接続する前にアドレス設定器(NSY501)(別売)でアドレス書き込みをしてください。アドレス書き込みを行わないと動作しません。  
(詳細はアドレス設定器に付属の取扱説明書を参照してください。)

### 設置した感知器・発信機・中継器・アイソレータのアドレス番号を変更するとき

- 詳細はアドレス設定器(NSY501)(別売)に付属の取扱説明書を参照してください。

# 3. 機能設定

扉を開けた図



## RS485/4線切替 設定スイッチ (SW2)

- RS485伝送端子の伝送仕様を設定します。

**注** 電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切」側にしてから設定してください。



SW2 : 伝送仕様が2線式の場合  
(出荷時設定)

- 接続可能機器：副表示機



SW2 : 伝送仕様が4線式の場合

## F+出力切替ジャンパ (JP1)

- 汎用出力 (F+—CC端子) を火災復旧操作時に出力遮断するかを設定します。

**注** 電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切」側にしてから設定してください。



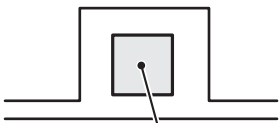
: 火災復旧時に出力遮断しない。  
(出荷時設定)



: 火災復旧時に出力遮断する。

## 予備電源起動スイッチ

- 交流電源スイッチが「切」側の状態で電池から受信機を起動させる場合、充電した電池のコネクタを差し込んでから、このスイッチを押してください。



予備電源起動スイッチ

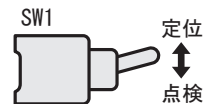
## 使用しません

- 操作しないでください。このスイッチは使用しません。

## 点検スイッチ

- 点検するときに使用します。

**注** 点検以外は「定位」で使用してください。



## ■ 件名テーブルを登録する

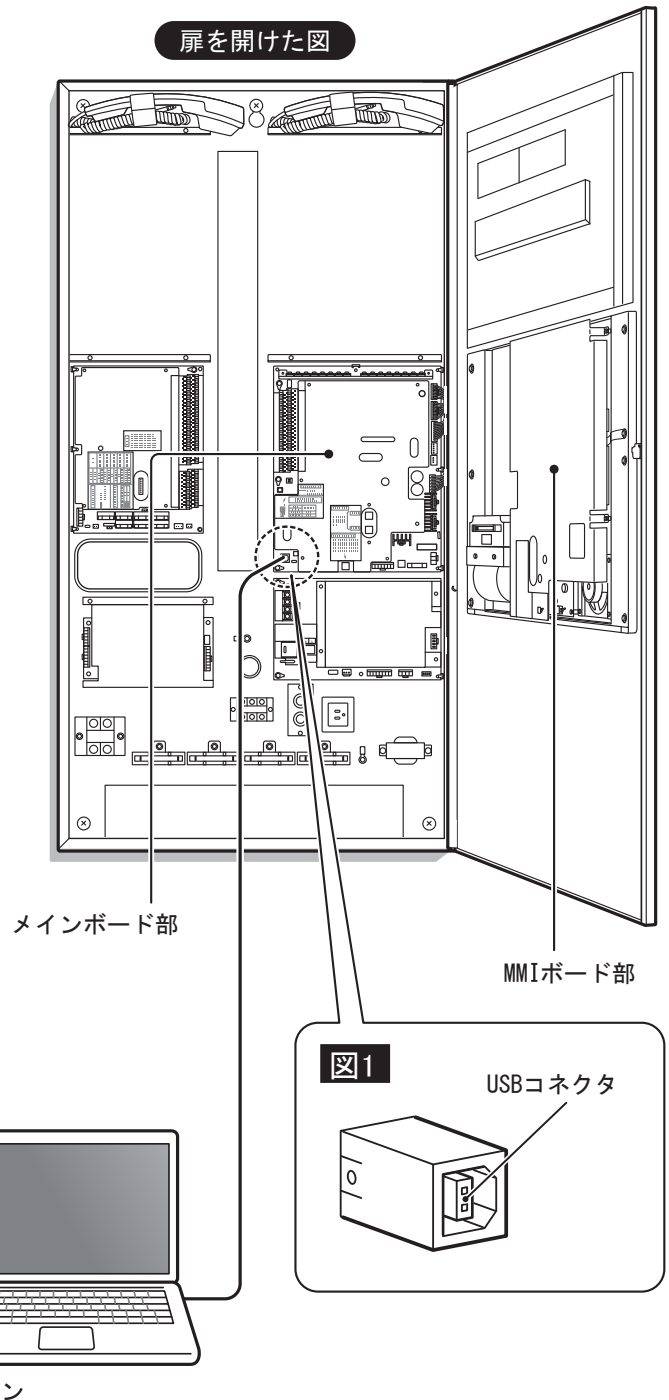
- 受信機は各件名にあわせて、接続機器・連動設定などが登録された件名テーブルによって動作します。  
現場にあわせて、件名テーブルを登録（別冊の「テーブルジェネレータ操作マニュアル」参照）し、受信機に転送する必要があります。  
受信機とテーブルジェネレータ（FLTG）がインストールされたパソコンを接続し、件名テーブルを転送してください。

### ① 受信機とパソコンを接続する。

1. 受信機の本機部のUSBコネクタ（**図1**参照）とパソコンのUSBポートをUSBケーブル（タイプA対タイプB）（別売）（市販品）で接続する。

### ② テーブルジェネレータ（FLTG）を起動し、パソコンから件名テーブルをダウンロードする。

- 注** テーブルジェネレータ（FLTG）の操作方法、設定方法などについては、別冊の「テーブルジェネレータ操作マニュアル」を参照してください。



# 4. 取付方法

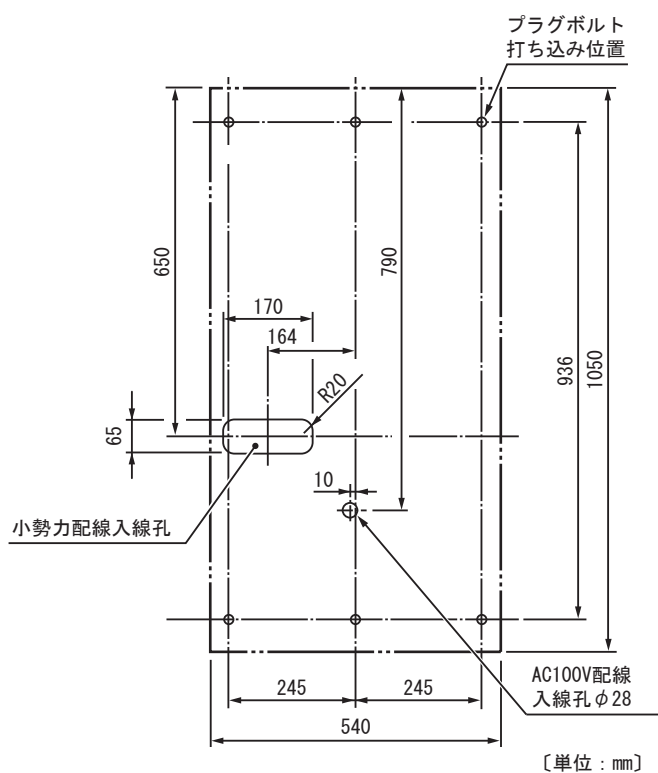
## 1 取付位置を決め、取付用プラグボルトを打ち込む。

- プラグボルト（M8）（市販品）の打ち込みと、配線を引き込む位置は下図の取付金具の取付寸法図のとおりです。
- この商品の取付穴寸法はφ14です。
- 本体の底上げは13.4mmです。
- AC100V配線と小勢力配線を下図の位置より引き出してください。

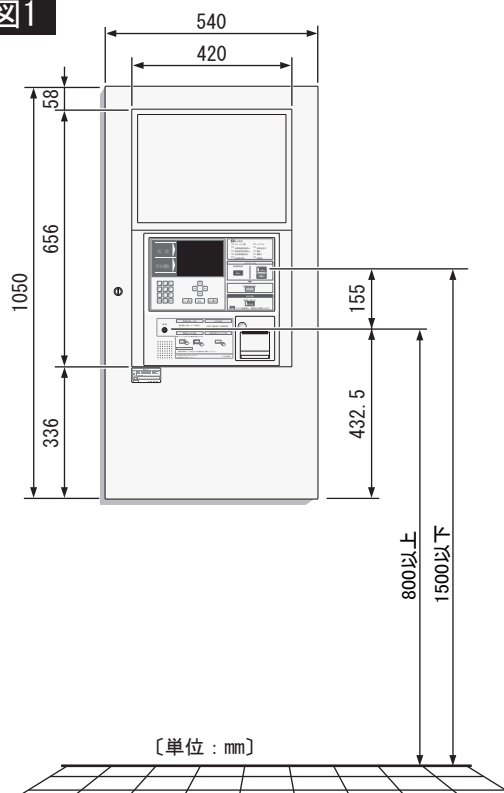
**注** 本体の操作スイッチ部が床面から800mm～1500mmの位置になるように取り付けてください。

図1参照

### 取付金具の取付寸法図



### 図1



## 2 入線を行う。

●AC100V配線および小勢力配線を分割して入線してください。

## 3 プラグボルト（6カ所）で取付金具を壁面に固定する。

- 注 ●表裏を間違わないように図のように取り付けてください。  
●床面に対し、垂直になるように取り付けてください。  
傾斜角が大きいと受信機の扉の開き方が悪くなる場合があります。

## 4 本体を取付金具に引っ掛ける。

## 5 付属の取付ネジ（5カ所）で本体を固定する。

## 6 配線する。 ※「全体の接続方法」参照（9～15ページ）

## 7 プリンタ用紙をプリンタにセットする。

（取扱説明書69ページ参照）

## 8 交流電源スイッチを「入」側にする。

## 9 電池を取り付けて、接続する。

## 10 本体の扉を閉める。 注 受信機が起動するまでに約60秒かかります。

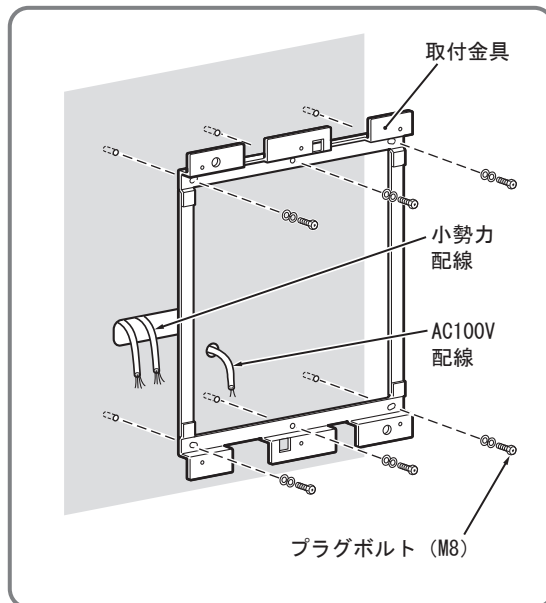
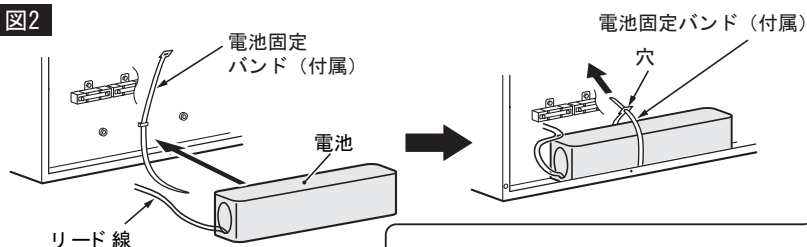


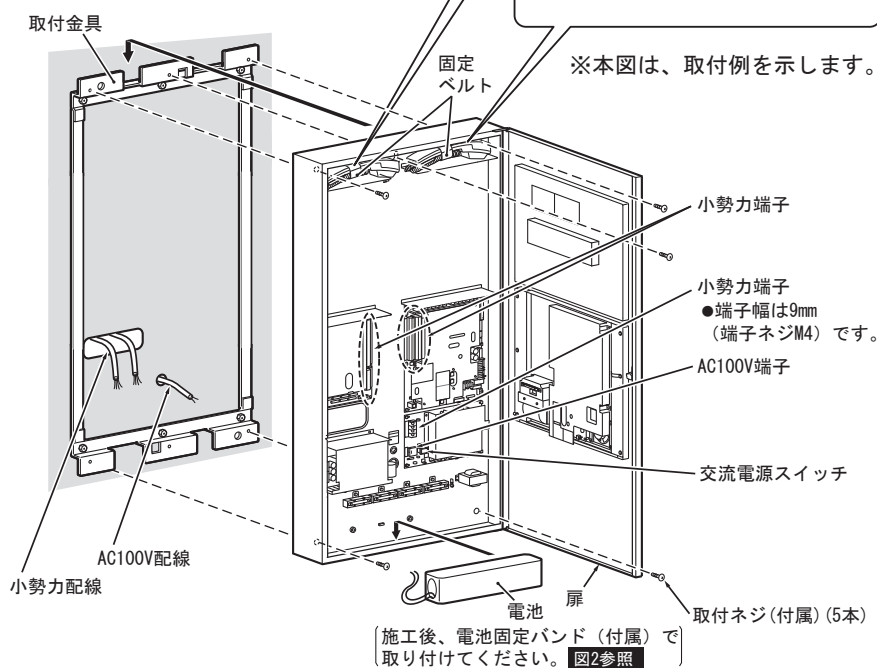
図2



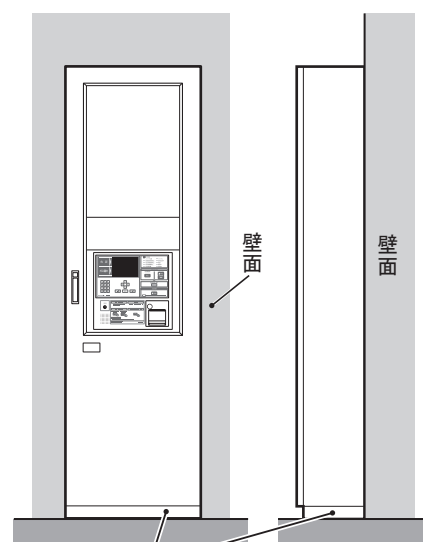
- 電池固定バンド（付属）の先端を電池固定バンドの穴に通して、電池を固定してください。

- 注 ●この部分に、固定ベルトを利用して電話機を収納してください。

※本図は、取付例を示します。



## ■自立型の場合



チャンネルベース

- 商品外形寸法は、件名仕様により異なります。詳しくは、機器の納入仕様書図をご確認ください。

### 注意



必ず守る

チャンネルベースは取付面の水平を確認し、適切なアンカーボルトを使用してしっかりと取り付ける。設置に不備があると事故の原因となります。

- 注 必要に応じて転倒防止の処置をしてください。

# 5. 全体の接続方法

## ■ AC100V配線（速結端子） / 小勢力端子（速結端子）

- 曲がった心線は使用しないでください。接触不良などをおこし、不動作の原因となります。  
 ●より線は使用しないでください。ハンダ仕上げして使用すると発熱の原因となります。

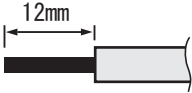
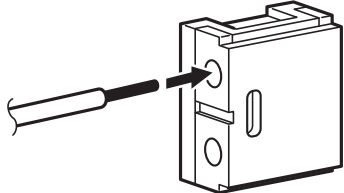
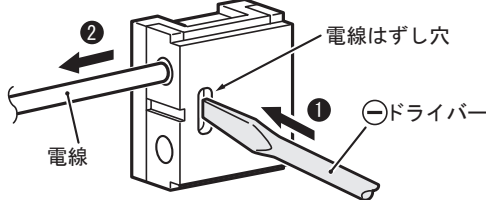
### AC100V配線（速結端子）

### 警告



必ず守る

AC100V用電源線は確実に差し込む。  
 差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。

|  |  |
|--|--|
| <p>① 電線の被ふくをむく。</p>  | <p>VVF <math>\phi</math>1.6または<math>\phi</math>2.0</p>  |
| <p>② 1本ずつ奥までしっかり差し込む。</p>                                      |   |
| <p>■電線のはずし方<br/>             ⊖ドライバーで電線はずし穴を押さえながら、電線を引き抜く。</p> |   |


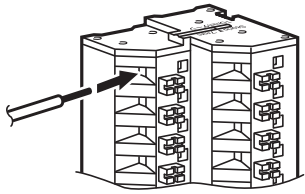
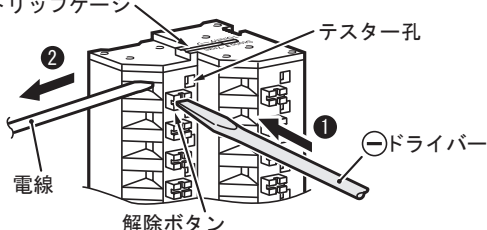
### 小勢力配線（速結端子）

### 警告



禁止

小勢力端子にAC100V用電源線を接続しない。  
 発火・発煙の原因となります。

|  |  |
|--|--|
| <p>① 電線の被ふくをむく。</p>  | <p><math>\phi</math>0.9~<math>\phi</math>1.2</p>  |
| <p>② 1本ずつ奥までしっかり差し込む。</p>                                      |   |
| <p>■電線のはずし方<br/>             ⊖ドライバーなどで解除ボタンを押しながら、電線を引き抜く。</p> |    |

### 導通確認のしかた

テスター孔にテスター棒を差し込めば結線したまま導通確認などができます。





■ 感知器・中継器伝送配線について

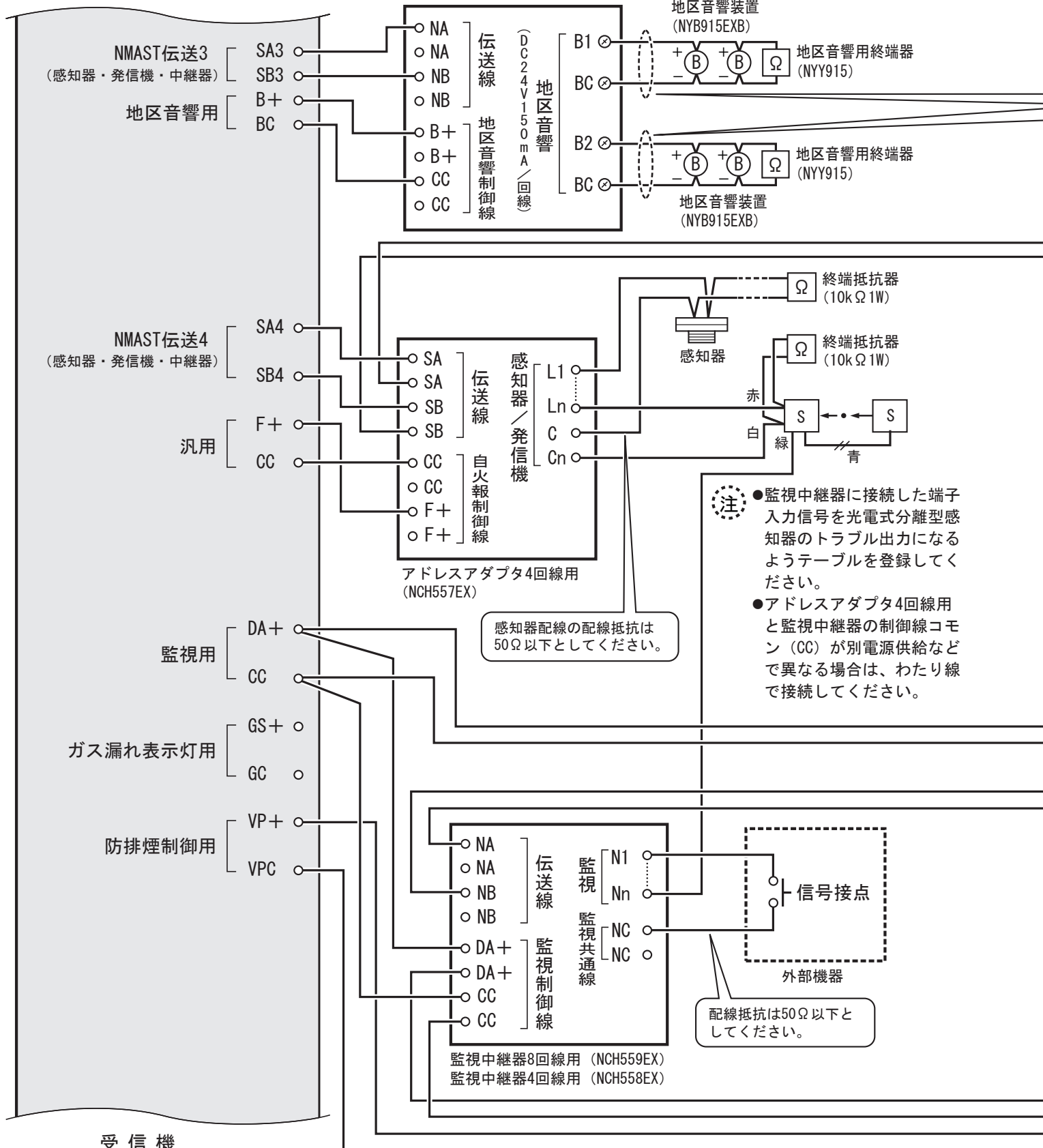
- 最遠長距離：1500m以下（分岐を含む総配線長距離：2000m以下）
- 線種：幹線は耐熱ケーブル（ツイストペア線）フロア配線は耐熱ケーブル
- 線径：配線抵抗20Ω以下となる線径
- 建屋をわたる伝送配線については、シールドが必要です。

伝送配線のシールドは、途中の中継器盤および最終端では、接地せずに受信機にて一点アースとしてください。



- 中継器は必ず受信機の電源（AC100V）を切り予備電源を外してから接続してください。接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

- ○端子は速結端子、⊗端子はネジ端子を示します。 地区音響中継器2回線用（NCH560EX）

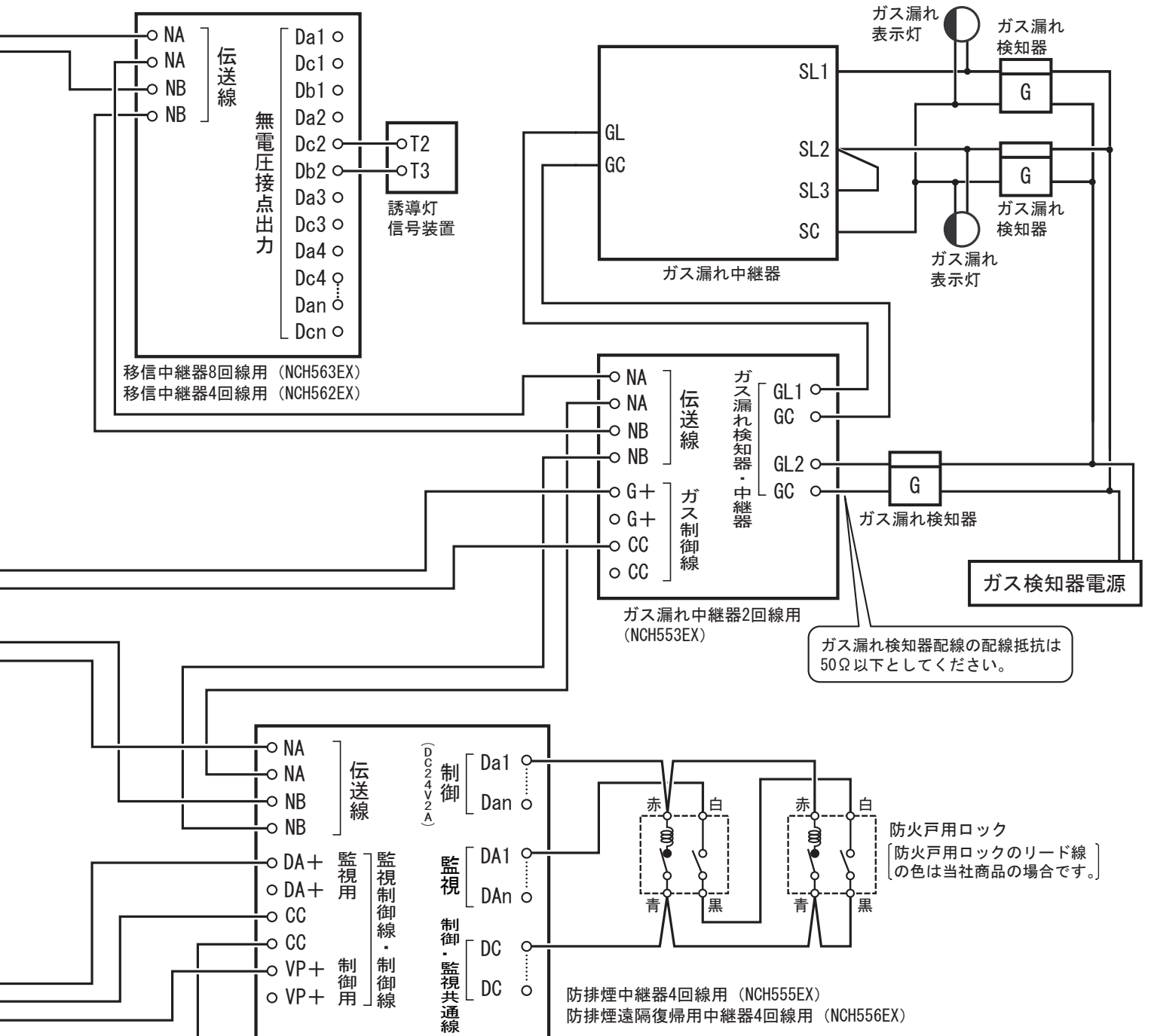
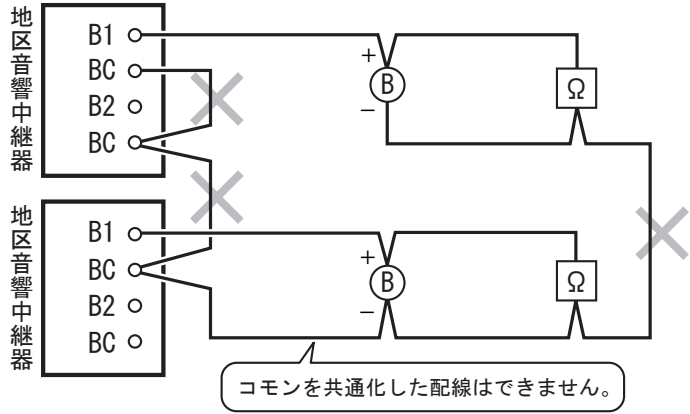


受信機

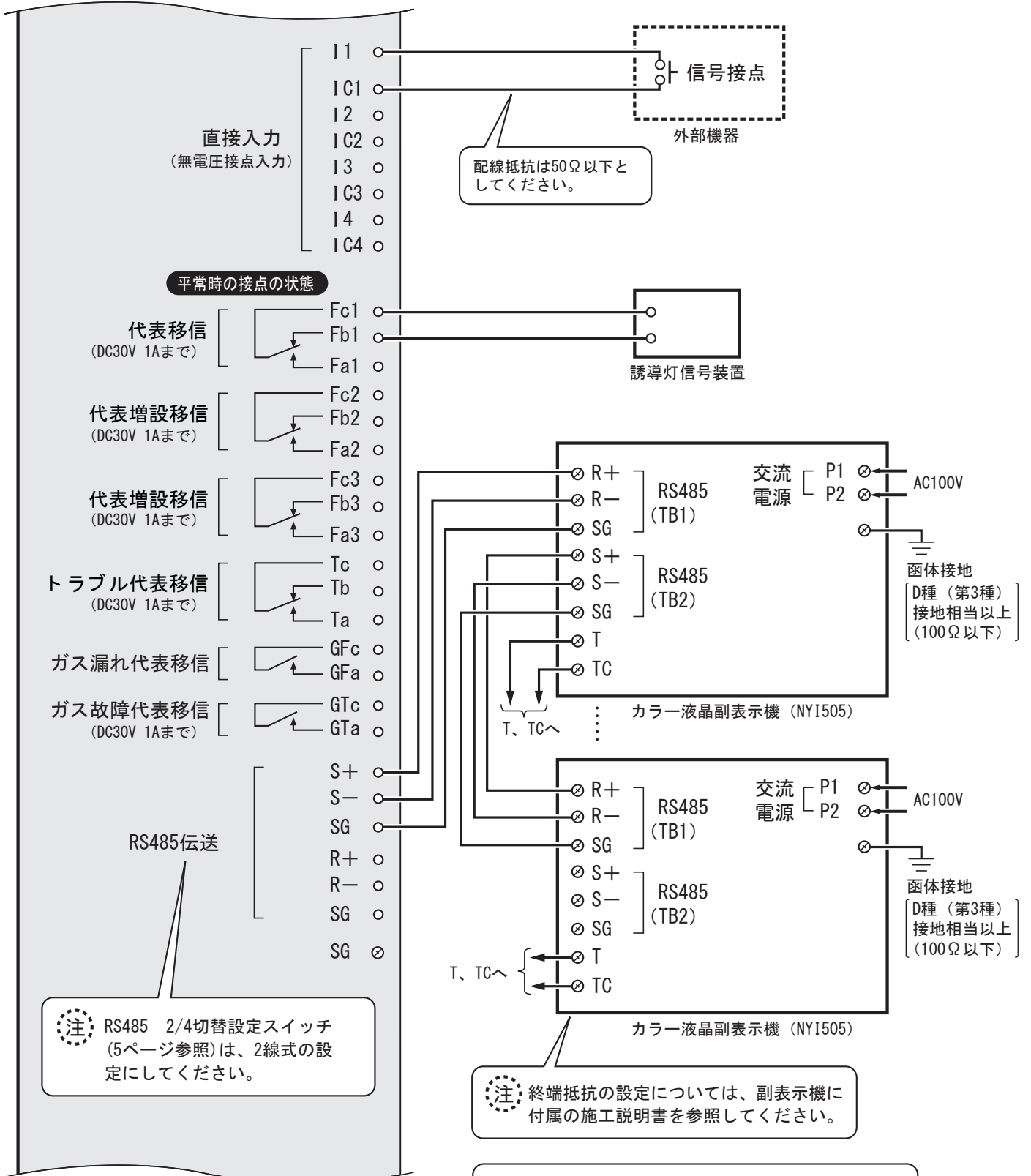


# 5. 全体の接続方法

- 注**
- 地区音響配線 (Bn, Bc) と感知器・中継器伝送配線は、別シースの配線をしてください。
  - 二次側配線を短絡したままで地区音響出力をONにはしないでください。  
接点容量 (30V 2A) を超える電流が流れ、中継器が故障する原因となります。
  - 出力ラインのコモン (BC) は、端子間または中継器間でわたらないようにしてください。  
配線故障のトラブル表示となります。
  - 地区音響装置は必ず当社指定のものを使用し、送り配線接続をしてください。



●○端子は速結端子、⊗端子はネジ端子を示します。



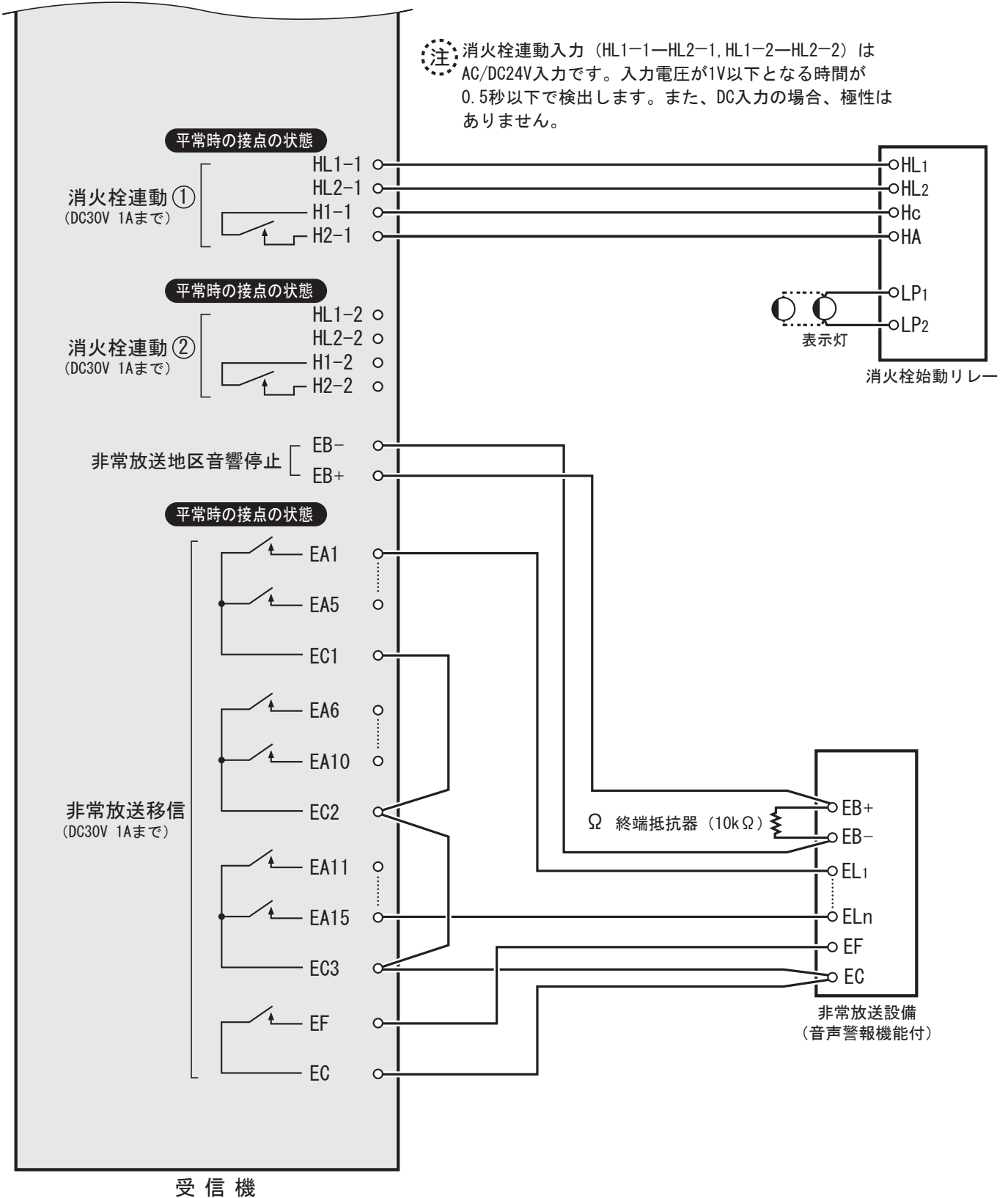
受信機

- 副表示機の配線について
- 最遠長距離 : 500m以下
  - 総配線長距離 : 1500m以下 (3分岐まで)
  - 線種 : 耐熱ケーブル (シールド付ツイストペア線)
  - 線径 : φ0.9以上

# 5. 全体の接続方法

●○端子は速結端子、⊗端子はネジ端子を示します。

**注** 消火栓連動入力 (HL1-1—HL2-1, HL1-2—HL2-2) は AC/DC24V入力です。入力電圧が1V以下となる時間が 0.5秒以下で検出します。また、DC入力の場合、極性は ありません。



## 5. 全体の接続方法

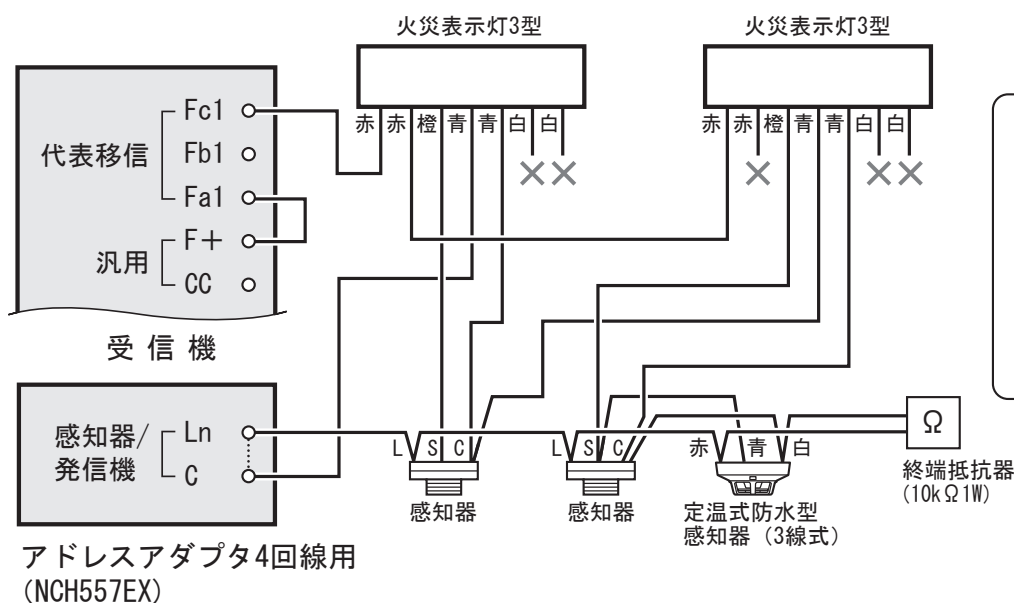
### 火災表示灯3型（パナソニック製BV9403K）との接続

●中継器は必ず受信機の電源（AC100V）を切り予備電源を外してから接続してください。  
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

●適合感知器ベース：NSY404EH、NSY404FH

●従来の3線式ベース（パナソニック製BV4920）との混在使用はできません。

●定温式防水型感知器（3線式）は、NST003ENA60・NST103ENA70・NST019ENA60・NST123ENA70を使用してください。



※×は下図のように処理してください。

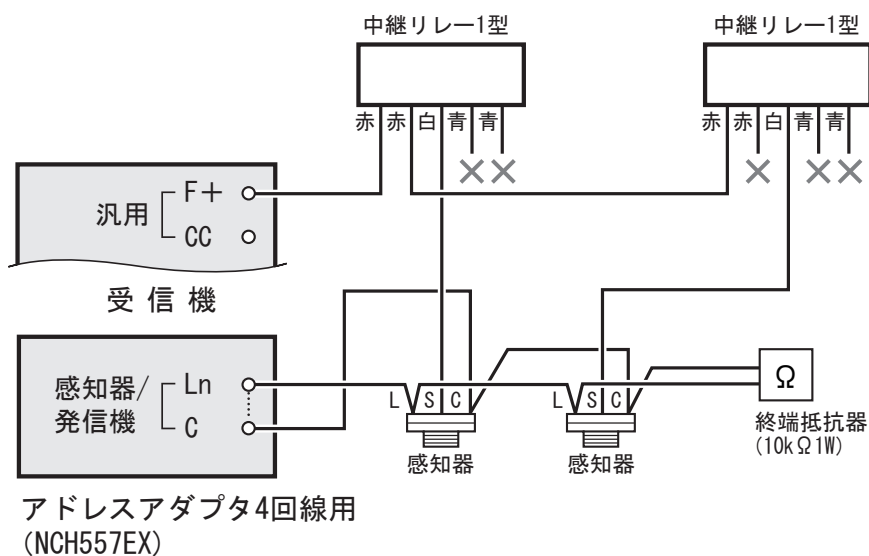
- ① 心線の部分を切断する。
- ② リード線の先端をテーピングでおおう。
- ③ 半幅以上かさねて2回以上巻き付ける。



### 中継リレー1型（パナソニック製BV9475）との接続

●中継器は必ず受信機の電源（AC100V）を切り予備電源を外してから接続してください。  
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

●適合感知器ベース：NSY404EH、NSY404FH



※×は下図のように処理してください。

- ① 心線の部分を切断する。
- ② リード線の先端をテーピングでおおう。
- ③ 半幅以上かさねて2回以上巻き付ける。

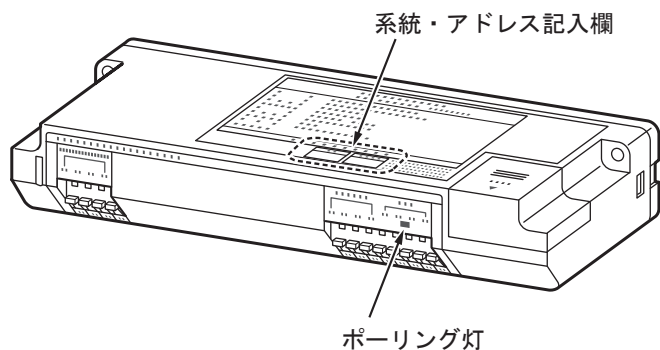


# 6. 中継器について

**注** ●中継器は必ず受信機の電源（AC100V）を切り予備電源を外してから接続してください。  
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

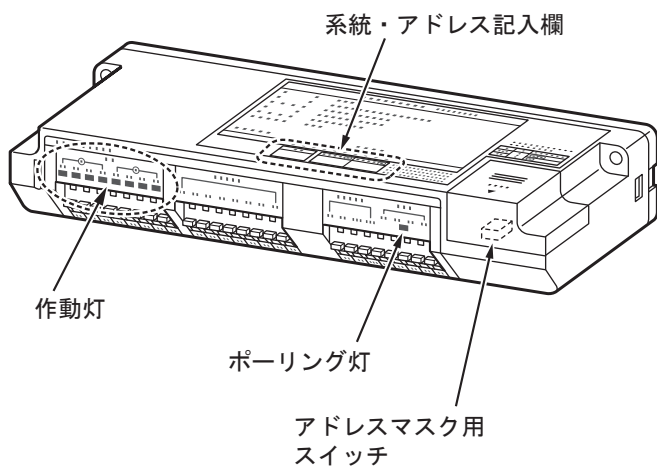
## ■ 中継器

地区音響中継器2回線用（自動試験機能付）（NCH560EX）





## ■ 監視中継器

監視中継器8回線用（NCH559EX）



### アドレスマスク方法

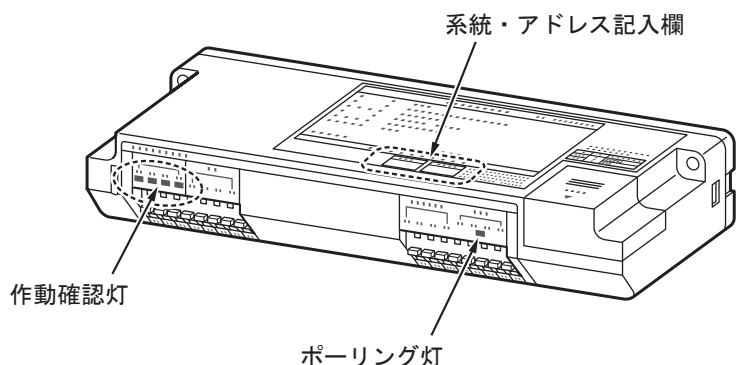
●アドレスマスク用スイッチ

ON   
OFF 

| アドレスマスク用<br>スイッチ番号 |        | 設定アドレス | 対応するアドレス<br>記入欄の番号 |
|--------------------|--------|--------|--------------------|
| 1 (左側)             | 2 (右側) |        |                    |
| OFF                | 未使用    | n、n+1  | n=①、n+1=②          |
| ON                 |        | n ※1   | n=①                |

●nはアドレス設定器による設定アドレスです。  
※1：n+1のアドレスマスク設定

監視中継器4回線用（NCH558EX）

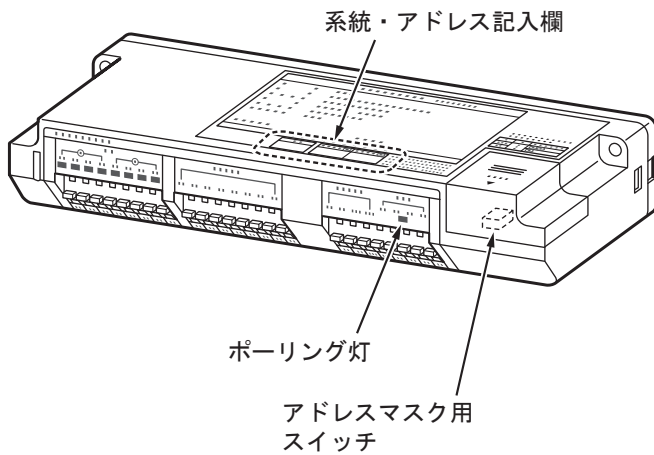




●中継器は必ず受信機の電源（AC100V）を切り予備電源を外してから接続してください。  
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。



## ■移信中継器

### 移信中継器8回線用（NCH563EX）



#### アドレスマスク方法

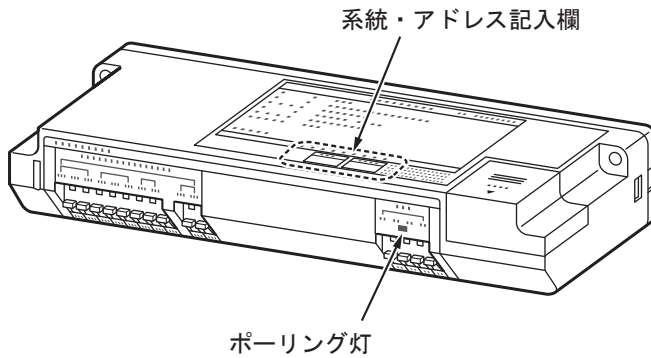
●アドレスマスク用スイッチ

ON   
OFF 

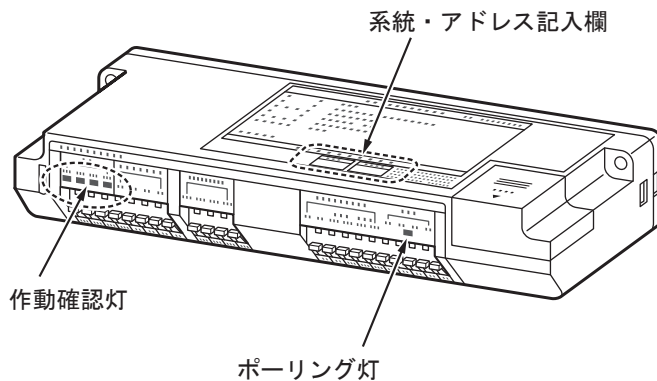
| アドレスマスク用スイッチ番号 |        | 設定アドレス | 対応するアドレス記入欄の番号 |
|----------------|--------|--------|----------------|
| 1 (左側)         | 2 (右側) |        |                |
| OFF            | 未使用    | n, n+1 | n=①、n+1=②      |
| ON             |        | n ※1   | n=①            |

●nはアドレス設定器による設定アドレスです。  
※1：n+1のアドレスマスク設定

### 移信中継器4回線用（NCH562EX）



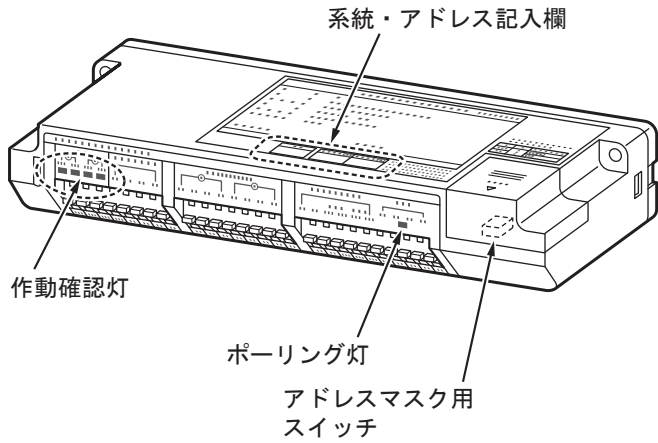
### 防排煙中継器4回線用（NCH555EX）





## 6. 中継器について

- 注** ●中継器は必ず受信機の電源（AC100V）を切り予備電源を外してから接続してください。  
接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

### 防排煙遠隔復帰用中継器4回線用（NCH556EX）



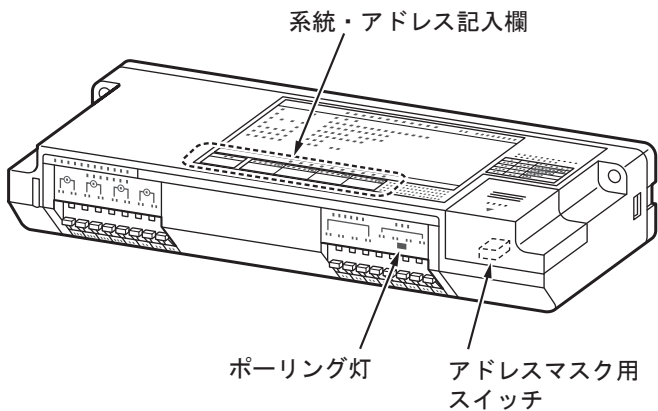
#### アドレスマスク方法

- アドレスマスク用スイッチ
- ON 
- OFF 



| アドレスマスク用スイッチ番号 |        | 設定アドレス | 対応するアドレス記入欄の番号 |
|----------------|--------|--------|----------------|
| 1 (左側)         | 2 (右側) |        |                |
| OFF            | 未使用    | n, n+1 | n=①, n+1=②     |
| ON             |        | n ※1   | n=①            |

- nはアドレス設定器による設定アドレスです。  
※1：n+1のアドレスマスク設定

### アドレスアダプタ中継器4回線用（NCH557EX）



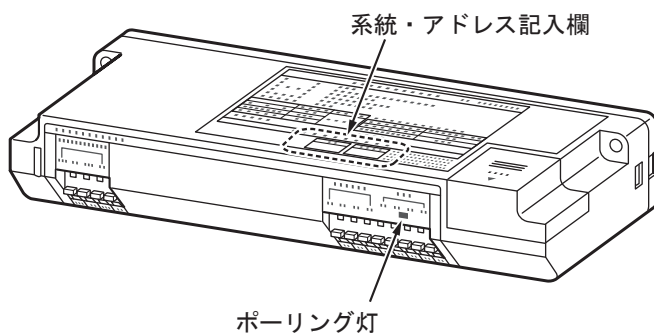
#### アドレスマスク方法

- アドレスマスク用スイッチ
- ON 
- OFF 

| アドレスマスク用スイッチ番号 |        | 設定アドレス           | 対応するアドレス記入欄の番号           |
|----------------|--------|------------------|--------------------------|
| 1 (左側)         | 2 (右側) |                  |                          |
| OFF            | OFF    | n, n+1, n+2, n+3 | n=①, n+1=②, n+2=③, n+3=④ |
| ON             | OFF    | n, n+1, n+2      | n=①, n+1=②, n+2=③        |
| OFF            | ON     | n, n+1           | n=①, n+1=②               |
| ON             | ON     | n ※1             | n=①                      |

- nはアドレス設定器による設定アドレスです。  
※1：n+1, n+2, n+3のアドレスマスク設定

### ガス漏れ中継器2回線用（NCH553EX）

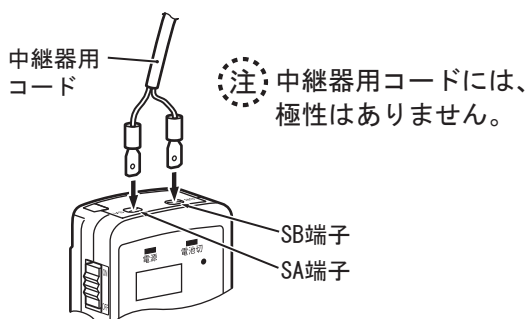


## ■ 中継器のアドレス設定方法

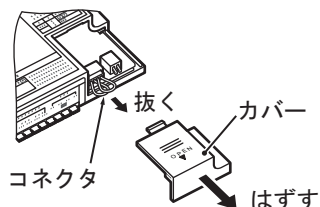
〔注〕 詳細はアドレス設定器（NSY501）（別売）に付属の取扱説明書を参照してください。

〔例〕 下記は、防排煙遠隔復帰用中継器4回線用（NCH556EX）との設定例を示します。

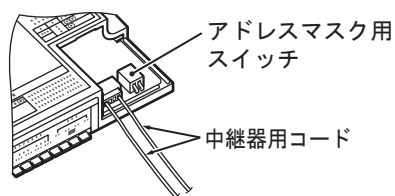
1 アドレス設定器のSA・SB端子に中継器用コード（付属）の端子側を差し込む。



2 中継器のカバーをはずし、コネクタを抜く。



3 中継器用コード（付属）のコネクタ側を中継器のコネクタ部に接続する。



4 アドレス設定器でアドレス設定を行う。

5 中継器用コード（付属）をアドレス設定器・中継器から取りはずし、2で抜いたコネクタを中継器に接続する。

6 アドレスの使用状況に合わせてアドレスマスク設定を行う。

〔注〕 防排煙遠隔復帰用中継器4回線用（NCH556EX）以外は、各中継器のアドレスマスク方法を参照してください。

### アドレスマスク方法

●アドレスマスク用スイッチ

ON

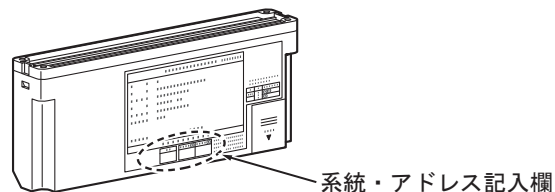
OFF

| アドレスマスク用スイッチ番号 |        | 設定アドレス | 対応するアドレス記入欄の番号 |
|----------------|--------|--------|----------------|
| 1 (左側)         | 2 (右側) |        |                |
| OFF            | 未使用    | n, n+1 | n=①、n+1=②      |
| ON             |        | n ※1   | n=①            |

●nはアドレス設定器による設定アドレスです。  
※1：n+1のアドレスマスク設定

7 2ではずしたカバーを中継器に取り付ける。

8 系統・アドレス記入欄に接続した伝送線の系統および設定したアドレスを記入する。



〔例〕 アドレス設定器でアドレス番号「5」を設定した場合、防排煙遠隔復帰用中継器4回線用は2アドレスタイプのため、アドレス番号「5」と「6」が自動で設定されます。中継器のアドレス記入欄の①には「5」を記入し、②には「6」を記入してください。ただし、アドレスマスクにてアドレス②をマスクしている場合は、アドレス記入欄の①に「5」のみ記入してください。



# 7. システム容量・端末接続個数

## システム容量について

|          |     |                        |
|----------|-----|------------------------|
| NMAST伝送線 | 系統数 | 4系統（感知器・発信機・中継器接続用）    |
| NMAST伝送線 | 系統数 | 最大アドレス（最大255アドレス／系統）※1 |
| RS485伝送線 | 系統数 | 1系統（副表示機接続用）           |
| RS485伝送線 | 接続数 | 副表示機 最大31台             |

※1：ただし、1系統目の最大アドレスは254アドレスです。

## 端末接続個数について

建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は、地区音響装置・表示灯・感知器・総合盤の電源容量が不足する場合があります。交換前に必ず、現在接続されている地区音響装置・表示灯・感知器・総合盤の消費電流を確認してください。（地区音響装置・表示灯・感知器・総合盤も現行品に交換することをおすすめします。）

●接続方法は9～16ページを参照してください。

## 受信機の場合

### ■ 感知器・発信機・中継器の接続個数

| 接続機器                     | 接続個数(1系統当たり) | 接続個数(受信機全体) | 備考  |
|--------------------------|--------------|-------------|---|
| Ⓐ (R X) 感知器              | Ⓐ ≤ 255コ（注1） | Ⓐ ≤ 1019コ   |   |
| Ⓐ (R X) 発信機              |              |             |   |
| Ⓑ (R X) アドレスアダプタ         | Ⓑ ≤ 200コ（注1） | Ⓑ ≤ 800コ    |   |
| Ⓒ アドレスアダプタ<br>4回線用       | Ⓒ ≤ 25コ（注1）  | Ⓒ ≤ 25コ     | アドレスアダプタ4回線用の電源をF+端子から供給する場合（注2）（注3）      |
|                          | Ⓒ ≤ 50コ（注1）  | Ⓒ ≤ 200コ    | アドレスアダプタ4回線用の電源を別電源から供給する場合               |
| Ⓓ アドレス熱電対検出器             | Ⓓ ≤ 120コ（注1） | Ⓓ ≤ 480コ    |   |
| Ⓔ (R X) アイソレータ           | Ⓔ ≤ 20コ（注1）  | Ⓔ ≤ 80コ     |   |
| Ⓕ ガス漏れ中継器                | Ⓕ ≤ 50コ（注1）  | Ⓕ ≤ 85コ     | ガス漏れ中継器の電源をDA+端子から供給する場合（注2）              |
|                          | Ⓕ ≤ 50コ（注1）  | Ⓕ ≤ 200コ    | ガス漏れ中継器の電源を別電源から供給する場合                    |
| Ⓖ 地区音響中継器<br>（自動試験機能付）   | Ⓖ ≤ 50コ（注1）  | Ⓖ ≤ 55コ     | 地区音響中継器の電源をB+端子から供給する場合（注2）               |
|                          | Ⓖ ≤ 50コ（注1）  | Ⓖ ≤ 200コ    | 地区音響中継器の電源を別電源から供給する場合                    |
| Ⓗ 中継器                    | Ⓗ ≤ 50コ（注1）  | Ⓗ ≤ 200コ    | 地区音響中継器（断線監視機能なし）、防排煙中継器、防排煙遠隔復帰中継器、移信中継器 |
| Ⓙ 旧中継器（分散型）              | Ⓙ ≤ 100コ（注1） | Ⓙ ≤ 400コ    |   |
| Ⓚ 地図式表示ユニット              | Ⓚ ≤ 25コ（注1）  | Ⓚ ≤ 100コ    |   |
| Ⓛ 地区音響装置<br>(DC24V 10mA) | —            | Ⓛ ≤ 80コ     | 地区音響中継器（自動試験機能付）を使用する場合                   |
|                          |              | Ⓛ ≤ 120コ    | 地区音響中継器（断線監視機能なし）を使用する場合                  |
| Ⓜ 表示灯                    | —            | Ⓜ ≤ 46コ     | 発光ダイオードタイプ（AC/DC24V 9mA）の場合               |
|                          |              | Ⓜ ≤ 7コ      | 白熱球タイプ（30V 2W）の場合                         |

（注1） ●上記のⒶ～Ⓚが混在する場合は、下記の方程式より接続数を決めてください。

$$\text{混在式 1: } 0.3 \times \text{Ⓐ} + \text{Ⓑ} + 4 \times \text{Ⓒ} + 1.66 \times \text{Ⓓ} + 1.5 \times \text{Ⓔ} + 4 \times \text{Ⓕ} + 2 \times \text{Ⓖ} + 8 \times \text{Ⓙ} \leq 200$$

（注2） ● Ⓒアドレスアダプタ4回線用、Ⓕガス漏れ中継器、Ⓖ地区音響中継器（自動試験機能付）の電源を受信機から供給する場合は、下記の方程式を満足する必要があります。

$$\text{混在式 2: } 31.3 \times \text{Ⓒ} + 9 \times \text{Ⓕ} (\text{ガス漏れ中継器}) + 16.2 \times \text{Ⓖ} (\text{地区音響中継器 (自動試験機能付)}) \leq 900$$

（注3） ● Ⓒアドレスアダプタ4回線用の電源をF+端子から供給する場合は、下記の方程式を満足する必要があります。

$$\text{混在式 3: } 13.9 \times \text{Ⓒ} + \text{汎用出力 (F+出力)} \text{ で供給する別電源の使用電流 (mA)} \leq 350$$

→ 次ページにつづく

## 7. システム容量・端末接続個数

### アドレスアダプタ2次側の場合

#### ■一般感知器接続個数

| 接続機器                                | 接続個数<br>(アドレスアダプタ2次側) | 接続個数<br>(1系統当たり)        |
|-------------------------------------|-----------------------|-------------------------|
| ● <b>I</b> 一般熱感知器(電子式)(HCH535EXA接続) | ● <b>I</b> ≤ 30コ (注2) | ● <b>I</b> ≤ 2000コ (注3) |
| ● <b>J</b> 一般熱感知器(電子式)(HCH557EX接続)  | ● <b>J</b> ≤ 80コ (注2) | ● <b>J</b> ≤ 2000コ (注3) |
| ● <b>K</b> 一般煙感知器                   | ● <b>K</b> ≤ 20コ (注2) | ● <b>K</b> ≤ 500コ (注3)  |
| ● <b>L</b> 一般光電分離型感知器 (※1)          | ● <b>L</b> ≤ 1コ (注2)  | ● <b>L</b> ≤ 20コ (注3)   |
| ● <b>M</b> 一般熱電対検出器                 | ● <b>M</b> ≤ 7コ (注2)  | ● <b>M</b> ≤ 125コ (注3)  |
| ● <b>N</b> 一般炎感知器 (NCH535EXA接続)     | ● <b>N</b> ≤ 2コ (注2)  | ● <b>N</b> ≤ 150コ (注3)  |
| ● <b>P</b> 一般炎感知器 (NCH557EX接続)      | ● <b>P</b> ≤ 4コ (注2)  | ● <b>P</b> ≤ 150コ (注3)  |

- (注1) ●当社光電分離型感知器と他の感知器との混在はできません。  
●接点式の一般熱感知器・発信機は、1回線当たりの接続数の制限はありません。
- (注2) ●上記の ●**I**～●**P**が混在する場合は、下記の方程式より接続数を決めてください。  
混在式 1 : ●**I** + 1.5 × ●**K** + 30 × ●**L** + 4.2 × ●**M** + 15 × ●**N** ≤ 30 (NCH535EXA接続)  
混在式 2 : ●**J** + 4 × ●**K** + 80 × ●**L** + 11.4 × ●**M** + 20 × ●**P** ≤ 80 (NCH557EX接続)
- (注3) ●1系統当たりのトータルは、下記の方程式より接続数を決めてください。  
混在式 3 : ●**I** + ●**J** + 4 × ●**K** + 100 × ●**L** + 16 × ●**M** + 13.33 × (●**N** + ●**P**) ≤ 2000

## 8. その他のラベル表示について

### ●自動火災報知設備専用ラベル

- 専用ブレーカーの近くに貼り付けてください。

# 9. 施工後の確認方法

受信機は、下記の設定をしてください。

- ① 現在時刻設定 …………… 取扱説明書52ページ参照
- ② 定時試験開始時間設定 …… 取扱説明書52ページ参照

受信機は、下記の試験をしてください。

- ① 火災試験 …………… 取扱説明書38ページ参照
- ② 一斉試験 …………… 取扱説明書40ページ参照
- ③ 防排煙作動制御 …………… 取扱説明書45ページ参照
- ④ 中継器移信制御 …………… 取扱説明書47ページ参照
- ⑤ 受信機移信制御 …………… 取扱説明書48ページ参照

**注** ●受信機の電源を「OFF」にするときは、「メニュー」の「8システム診断」の「5推奨電源切操作」を行ったあとに、受信機の交流電源スイッチを「切」側にしてください。（取扱説明書64ページ参照）  
「メニュー」の「8システム診断」の「5推奨電源切操作」を行わないと、受信機の履歴の情報が保持されない場合があります。  
●防排煙作動制御画面、中継器移信画面、受信機移信画面の〈制御復旧〉欄に手動制御の戻し忘れが残っていないかを確認してください。

接続した感知器は、下記の操作試験をしてください。

**注** 詳細は、各試験器に付属の取扱説明書を参照してください。

- 熱感知器（差動式・定温式）の場合は、加熱試験器で加熱試験をしてください。
- 煙感知器（光電式）の場合は、加煙試験器で加煙試験をしてください。
- 煙感知器（光電式分離型）の場合は、感度試験用フィルターで動作試験をしてください。
- 差動式分布型感知器（空気管式）の場合は、火災作動試験・作動継続試験をしてください。

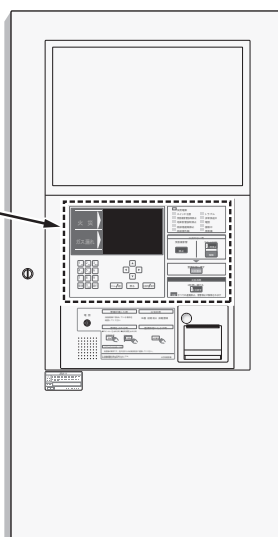
絶縁試験をする場合

**注** DC250Vタイプの絶縁抵抗計を使用してください。

- 受信機の絶縁試験を行う場合は、非常放送設備への配線ははずしてから行ってください。
- 外部配線相互間の絶縁試験を行う場合は、感知器・終端抵抗器・受信機の外部配線を切り離して行ってください。また、絶縁抵抗が低下している場合は、周辺機器を破壊するおそれがあるので、事前にテスターで抵抗値の確認を行ってください。

施工完了後、操作部の **保護シート** をはがしてください。

施工後、  
保護シート(透明)をはがす

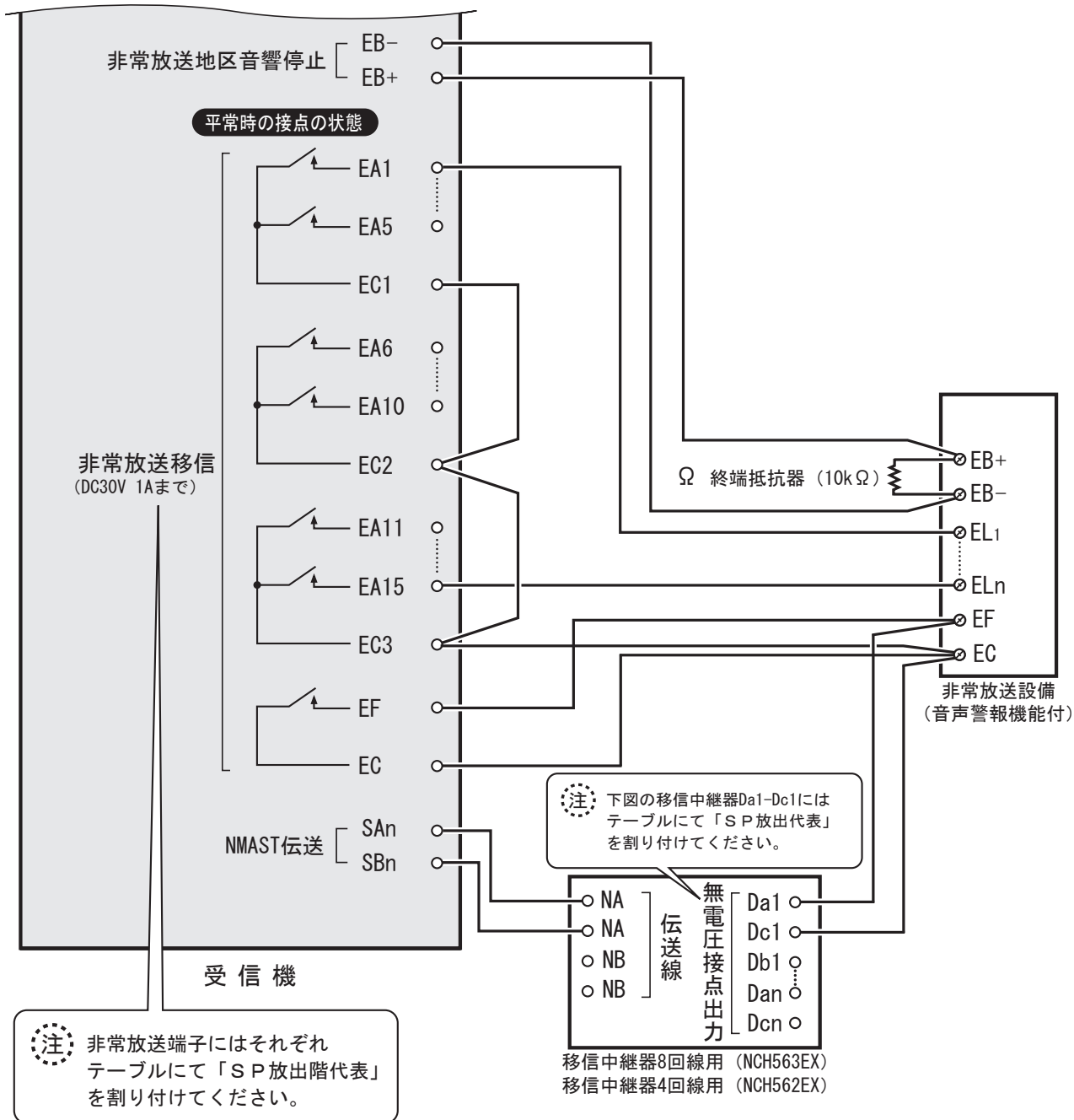


# 別紙 1. EF連携（SP放出→火災確定）について

**注** ●中継器は必ず受信機の電源（AC100V）を切り予備電源を外してから接続してください。  
 接続後、受信機を起動し中継器をリセットさせてください。

■SP放出→火災確定連動については移信端子を利用してハード的に行います。  
 （下図は移信中継器を使用した例です。増設代表移信を使用する事も出来ます。）

●○端子は速結端子、⊗端子はネジ端子を示します。



---

A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.

---

